発行所 かしわら見張り番

代表 はまうら佳子
〒582-0026
柏原市旭ヶ丘2丁目4番25号
電話 072-977-5502
FAX.072-977-8782

The Kashiwara Mihariban
かしわら見張り番
2011 2 no.17

ゴミ収集労組がスト

原因は市の不正入札疑惑

全国初 非道な市政に抗議

ゴミ収集の委託業者でつくる自治労傘下の柏原清掃労組は、市の突然の入札実施で多くの失業者が出ると抗議。不透明な入札に関して市の説明を申し入れてきたが市が無視し続けたため、一月六日、二十四時間のストを実施した。

ストにより柏原市内の約七割の世帯の収集に遅れが出た。市は昨年、ゴミ収集委託業務を突然指名入札に変更、五十年にわたって市の委託を受け問題なく収集をおこなってきた業者を切り捨て、岡本泰明市長に近い同族業者二社を含む三社が新規参入。しかも一社は、過去に大きな問題を起こした不良業者だった。

現行委託収集業者四社のうち二社の一部の従業員でつくる自治労傘下の柏原委託清掃労組は、この不透明な入札に抗議し市長との協議を申し入れてきたが、市側が無視したため、やむなくストを実施したという。

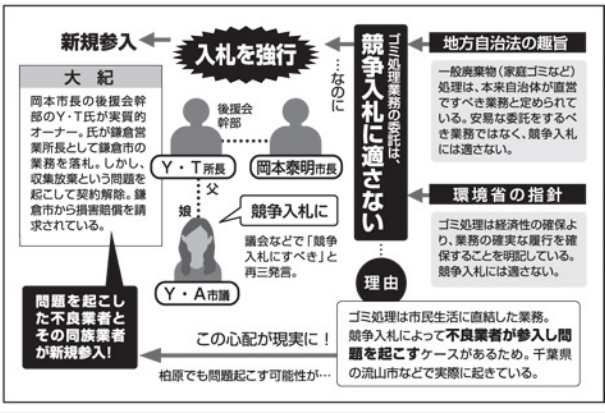
「入札は不適切」が地方自治法の趣旨

地方自治法では、一般廃棄物処理は自治体が直営すべき事業と定める。たとえ民間に委託する場合でも、市民生活に直結するため入札には適さず随意契約が望ましい業務とされる。競争入札で参入した業者が問題を起こすケースがあるからだ。実際、今回の入札で新規参入した大紀は鎌倉市で問題を起こしている。

これまで委託業者は、厳しい市の行政指導を受け入れてきた。民間業者ではあるが自由な業務ができない準公務員の立場だ。事実、近隣の羽曳野市や八尾市ではこの認識のもと、随意契約が現在も維持されている。

柏原市の突然の入札実施は、地方自治法の趣旨に反する疑いがあるとして、近隣自治体からも疑問の声が上がっている。

ゴミ処理業務の入札は地方自治法の趣旨に反する



スト回避すべきだった

労組側は正式な手続きでストを告げており、代わりに市職員が回収に当たったが、約七割の世帯で収集が遅れ約四百件の苦情が寄せられた。

委託業者側によると「市からいじめ抜かれてよく絶えた。忠臣蔵のようだ」と激励が寄せられたり、回収現場で「わかってるで兄ちゃん、がんばりや」などと声をかける市民もいたという。

しかし市民に大きな迷惑がかかったのは事実。できる限り労組はスト回避の道を取るべきだった。市側も非がないというなら堂々と労組との協議に応じ、二度とストが実施されないようにしなければならない。

50年にわたって柏原のゴミ処理を担い市民に親しまれた委託業者は、非道な入札により切り捨てられた

不良業者が新規に参入 結局、困るのは市民

前述のように、ゴミ収集が市民生活に密着しているため、直営できなければ地方自治法の趣旨により随意契約を結ぶのが普通だ。

しかし柏原市にはそのような見識がないばかりか、利権絡みの不透明な指名入札を実施したため、全国初ともいえる委託業者のストが実施されたのだ。

不良参入業者はY・A議員の親族

利権に目が向いて市民の利益を全く考えていないのは、市長だけではなく、市議会議員たちも同様だ。I議員やY・A議員は、今回のストをあたかも委託業者だけに責任があるかのような事実をねじ曲げた非常識な発言をしている(2面参照)。

岡本市長に近いY・A議員の親戚や親族が経営する業者(大紀、近畿クリーン)が、半数近い地域を落札をした汚職体質は大きな問題だ。しかし、それ以上に問題なのは、その業者が、過去に大きな問題を起こした不良業者だということだ。

不良業者に不安

本紙が詳細に報道してきた通り、大紀は鎌倉市で資源ゴミ収集業務を落札。しかし当初より市民の評判が悪くついには回収を放棄、市内にゴミが放置されるという前代未聞の問題を起こした。鎌倉市からは、契約解除され損害賠償を請求されている。

このような不良業者が、指名されて新規参入したのだ。柏原で同様の問題を起こせば、結局、困るのは市民だ。大紀が業務を始めるのは今年の四月。市民生活に混乱を来す事件を起こさないか大きな不安がよぎる。

memo

【地方自治法にもとづく一般廃棄物処理】 地方自治法では、一般廃棄物(家庭ゴミ等)処理を“自治体固有の事務”と定めており、直営すなわち公務員がすべき業務としている。市民生活に密着した重要な業務だからだ。この趣旨から、競争入札には適さない業務と言える。

環境省も、ゴミ処理は経済性の確保より、業務の確実な履行を確保することを明記した指針を出している。競争入札によって新規参入した業者がトラブルを起こすケースが実際にあるからだ(千葉県の流山での問題など)。

このような地方自治法の趣旨や環境省の指針を無視し、柏原市では指名入札を強行した。しかも、実際に問題を起こした業者が指名され、新規参入している(大紀は鎌倉市で問題を起こし損害賠償請求されている)。

何の問題もない現行の随意契約を突然打ち切り、不良業者を新規参入させた柏原市の入札は不当と言わざるえない。市民生活より利権を優先した結果だ。